

教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。
信じている力	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を發揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

	授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	
	◆ SDGs概論	1	1	春	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何が出来るか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎		
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎		
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎	
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎	
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎	
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎	
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春	「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎	

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	高校までに習得したコンピューターリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△					
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○		
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○		
外国語	◆ 英語基礎 I	2	1	春	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 I」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ 英語基礎 II	2	1	秋	「英語基礎 I」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。「アクティブ英語 II」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
	◆ アクティブ英語 I	2	1	春	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 I」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	アクティブ英語 II	2	1	秋	「アクティブ英語 I」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎 II」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
	レベルアップ英語 I	2	2	春	海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	レベルアップ英語 II	2	2	秋	「レベルアップ英語 I」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けの支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
	中国語と中国文化 I	2	1	春	中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
中国語と中国文化 II	2	1	秋	「中国語 I」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	フランス語とフランス文化 I	2	1	春	フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	フランス語とフランス文化 II	2	1	秋	「フランス語 I」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 I	2	1	春	ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	ドイツ語とドイツ文化 II	2	1	秋	「ドイツ語 I」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	◇ 日本語 I A(文法)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(読解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I A(聴解)	2	1	春	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(文法)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
日本語(留学生専用科目)	◇ 日本語 I B(読解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	◇ 日本語 I B(聴解)	2	1	秋	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語 II A(文法)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
	* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋	日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
社会の理解	日本国憲法	2	1	春または秋	日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○				
	経済学	2	1	春または秋	私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎					
	社会学	2	1	春または秋	社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△			
	哲学	2	1	春または秋	哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△				
	心理学	2	1	春または秋	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△				△
	多様性の理解	2	1	春または秋	異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
基礎教育科目	人間形成											
	文章力の基礎	2	1	春 または 秋	大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○			
	美術の見方	2	1	春 または 秋	自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語るができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○			
	生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○			
	生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋	様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたりスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎			
自然科学												
	数的理解	2	1	春 または 秋	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△	
	化学	2	1	春 または 秋	基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎				
	生物学	2	1	春 または 秋	生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△		
	環境科学	2	1	春 または 秋	現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応することが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△	

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学部名	保健医療福祉学部	学科名	作業療法学科	2022年度 カリキュラムマップ
-----	----------	-----	--------	------------------

作業療法学科のDP(ディプロマ・ポリシー)

※学科のディプロマポリシーを記載

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	作業療法士として豊かな教養を身につけている。また、基礎医学、臨床医学、作業療法学に関する専門知識・技能を身につけている。
	DP2	情報の活用	対象者の問題を解決するために、最新最善の研究成果を情報収集し、その質を吟味したうえで、作業療法で活用できる力を身につけている。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	基礎医学、臨床医学、作業療法学を主体的に学び続け、科学的・論理的な思考を駆使できる力を身につけている。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	作業療法士として対象者や他職種など立場の異なる人々と協働できるコミュニケーション能力・表現力を身につけている。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	作業療法の国際動向を理解したうえで、作業療法に関する専門知識・技能を活かし、地域社会に貢献できる力を身につけている。
	DP6	課題解決力	課題を発見し、作業療法の専門知識・技能を活かして解決することができる力を身につけている。
信じる力	DP7	自己効力感	自らの作業療法士としての可能性を信じ、知的好奇心を持って学習し、社会に貢献できる自信を身につけている。
	DP8	作業療法実践力	作業を通して対象者、地域社会の健康、幸福、公正に貢献できる実践力を身につけている。

◎: 科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○: 科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △: 科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

授業科目	◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
人体の構造と機能及び心身の発達	◆ 解剖学Ⅰ		1	1	春	到達目標: 学生は、骨や靭帯、筋肉などの運動にかかわる器官について、各部位の名称や構造を理解できる。また、関節の構造や動きの仕組みについての基礎力を確立し、将来理論的かつ実践的な病態理解ができるようになる。 授業内容: 骨・靭帯・筋肉の位置や名称を覚えることは勿論、関節の動きのメカニズムなど、運動器全体のイメージの確立を目指す。講義では「teamLabアプリ」を使用し、人体の3次元動態を映像で学ぶことで、より臨床に生きる知識を身につける。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◆ 解剖学Ⅱ		1	1	秋	到達目標: 学生は、神経系の各部位の名称や構造・仕組みについて理解することができる。また、各部位の生理学的な仕組みを考慮しながら神経系の主要な疾患の病態理解ができるようになることを目標とする。 授業内容: 脳・脊髄の構造、神経伝導路、脊髄神経系、脳神経系などの解剖学的構造について、神経疾患との関連も含めながら講義する。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◆ 解剖学演習Ⅰ		1	1	春	到達目標: 学生は、PTOTの仕事に不可欠な人体解剖学について興味を持ち自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。各器官の発生過程を考慮したうえで、循環器・消化器についての構造と機能を理解することを目標とする。 授業内容: 人体を構成する細胞、組織、器官の成り立ちと全身の器官系についての総論を行う。循環器系・消化器系・生殖器系の各部位の詳細な構造や名称について理解するとともに、生理学的な機能を考慮しながら主要な疾患の病態についても考察する。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◆ 解剖学演習Ⅱ		1	1	秋	到達目標: 学生は、呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・感覚器系について、各部位の名称や構造を理解できる。また、各器官の生理学的な仕組みを考慮しながら、主要な疾患の病態理解が出来るようになることを目標とする。 授業内容: 呼吸器系・泌尿器系・内分泌系・感覚器系の各部位の詳細な構造や名称についての基本事項を理解するとともに、生理学的な機能を考慮しながら主要な疾患の病態についても考察する。	◎	○	◎	△	△	△	△	△
	◆ 生理学Ⅰ		1	1	春	到達目標: 医学を学ぶ上でのもっとも基礎となる「正常なからだの働きとしくみ」を理解し、生体の生理機能についての知識を身につけることができる。今後4年間で学ぶ医学を理解する上での基礎知識の習得と必要な思考パターンを形成できる。 授業内容: 体液・循環・呼吸・消化・代謝・排泄・内分泌などの植物性機能と、筋・神経・感覚などの動物性機能の基本的な働きと、その神経性・体液性調節のメカニズムを学ぶ。	◎	△	○					
	◆ 生理学Ⅱ		1	1	秋	到達目標: 医学を学ぶ上でのもっとも基礎となる「正常なからだの働きとしくみ」を理解し、生体の生理機能についての知識を身につけることができる。今後4年間で学ぶ医学を理解する上での基礎知識の習得と必要な思考パターンを形成できる。 授業内容: 体液・循環・呼吸・消化・代謝・排泄・内分泌などの植物性機能と、筋・神経・感覚などの動物性機能の基本的な働きと、その神経性・体液性調節のメカニズムを学ぶ。	◎	△	○					
	◆ 生理学実習		2	2	春	到達目標: 生理学Ⅰと生理学Ⅱの講義で得た知識を、生体を使って実際に実験を行って、生体現象を肌で感じ、生きた知識とすることを目的とする。 授業内容: 将来の臨床分野との関連性を考慮して、神経の興奮・伝導、筋収縮、反射に関する基礎的な実験をカエルを用いて行う。また自分たちの体を使って心電図や筋電図の計測、血圧、心拍数、血流量、発汗量、呼吸機能検査などの測定を行う。皮膚感覚についても、ヒトを用いて実験を行う。これらの実験から生体の計測方法や、実験データの解釈やまとめ方などを学ぶ。	◎	△	○					
	◆ 運動学		2	2	春	到達目標: 学生の到達目標は、人体の筋骨格系の運動様式を用い、作業療法士として必要な運動・作業の見方や考え方ができることである。 授業内容: 上肢・手指、下肢の運動器官と力学的基礎知識を学ぶ。さらに実技を通して人間の基本的な動作(寝返り、立ち上がり、歩行等)の動作分析について学ぶ。主体的な講義にするため、学生によるプレゼンテーションなどのALを実施することもある。	◎	△	○					

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
◆ 運動学実習	1	2	秋	到達目標：身体運動に関する実習を行い、運動学の基礎知識を用いて整理する。また作業療法の視点を加えながら自ら考察することを目標とする。 授業内容：上肢、下肢、歩行、作業分析、運動分析などテーマに沿った実習をグループで行う。実習はグループで行うためメンバーとの協力が非常に重要となる。実習ではテキストや配布資料を熟読し、目的、方法を十分理解し実施する。その後結果、考察をまとめ、作業療法士に必要な思考を整理する。知識の整理と記録方法を学習するためにレポートを作成する。	◎	△	○					
◆ 運動発達学	1	2	春	到達目標：乳幼児が運動機能を獲得していく過程、および運動機能の発達と密接に関連する認知、感情、ことば、食べる機能の発達について理解し、人間の発達を多面的にとらえるための知識と思考力を獲得することが到達目標である。 授業内容：運動機能の発達については、出生から1歳までの発達を詳細に学ぶ。その際、頸定、寝返り、座位、四つ這い、立位、歩行など各発達段階の機能が、どのように統合し、獲得されていくのかについて解説する。また認知機能の発達（ピアジェの発達論）、ことばの発達とことばの本質的な働き、感情の発達（マイケル・ルイスのモデル）を説明する。さらに、子どもの発達に不可欠な遊びの発達と生きるための基本的な機能である食べる機能の発達についても解説し、多面的な角度から子どもが発達する姿を学ぶ	◎	△	○					
◆ 人間発達学	1	1	春	到達目標：学生は、胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会性の機能の発達を説明できる。 授業内容：胎児期から老年期までの各期における運動機能、認知機能、言語機能、情緒・社会性の機能の発達について解説する。各々の時期で重要な事柄について、現代の発達心理学の主要な知見を示しながら、人間の生涯を解説していく。	◎	△	○					
◆ 病理学	1	2	春	到達目標：本講義では学生が、これまで学習した内容を総合して、病気の原因、発生の仕組み、経過、病気が辿る最終的な結末（転帰）といった病気の本態に関する基礎知識を身につけ、臨床医学をさらに理解できることを到達目標とする。 授業内容：病理学総論として、全身の臓器に共通する一般的な原理を講義する。	◎	○	△		○	△		
◆ 臨床心理学	1	2	春	到達目標：臨床心理学についての基礎的な内容を学習し、応用に向けた知識と実践的な態度を身につけられるようになることである。 授業内容：臨床心理学についての基礎的な内容を紹介する。臨床心理学の発展の歴史、心理療法、心理アセスメント、精神疾患の理解、臨床の現場などについて紹介する。	◎	○	△		○	△		
◆ 内科学Ⅰ	1	2	春	到達目標：学生が内科学の基礎となる情報収集、論理的思考、判断、フィードバックでの考え方を学び、さらに最新の知識も習得できることを到達目標とする。 授業内容：病気がどのようなメカニズムから生じたのか、さらにそれらの疾患の身体機能や生命の予後はどのような経過を辿るのかを理解する。	◎	○	△		○	△		
◆ 内科学Ⅱ	1	2	秋	到達目標：本講義では、学生が内科学の基礎となる情報収集、論理的思考、判断、フィードバックでの考え方を学び、さらに最新の知識も習得できることを到達目標とする。 授業内容：病気がどのようなメカニズムから生じたのか、さらにそれらの疾患の身体機能や生命の予後はどのような経過を辿るのかを理解する。	◎	○	△		○	△		
◆ 整形外科Ⅰ	1	2	秋	到達目標：「運動器の基礎科学・解剖・生理」、「整形外科疾患の病態、診断、治療、リハビリテーション」をテーマとし、運動器の解剖、生理、さらに整形外科疾患の病態やその治療方法を学び、運動器疾患の専門家として臨床の現場で困らないだけの知識と課題を分析し解決する能力を学生が身につけることができる。 授業内容：この講義では、今までに学修した解剖学・生理学の知識を踏まえ、整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。病態や治療法を理解する上で重要な基本的・普遍的なポイントをおさえつつ、随時最新の知見を取り入れて講義する。また、実際の症例を多くの画像を用いて紹介し、臨床の現場で必要となる科学的根拠に基づいた判断力・思考力も養えるようにする。	◎	○	△		○	△		
◆ 整形外科Ⅱ	1	3	春	到達目標：「運動器の基礎科学・解剖・生理」、「整形外科疾患の病態、診断、治療、リハビリテーション」をテーマとし、運動器の解剖、生理、さらに整形外科疾患の病態やその治療方法を学び、運動器疾患の専門家として臨床の現場で困らないだけの知識と課題を分析し解決する能力を学生が身につけることができる。 授業内容：この講義では、今までに学修した解剖学・生理学の知識を踏まえ、整形外科疾患の病態を理解し、診断方法を学び、臨床の現場に役立つ力を身につけるものである。病態や治療法を理解する上で重要な基本的・普遍的なポイントをおさえつつ、随時最新の知見を取り入れて講義する。また、実際の症例を多くの画像を用いて紹介し、臨床の現場で必要となる科学的根拠に基づいた判断力・思考力も養えるようにする。	◎	○	△		○	△		
◆ 臨床神経学	1	2	秋	到達目標：この授業のテーマは、各種の神経疾患の臨床像の理解であり、神経疾患に関する国家試験問題に対応できるレベルの知識の習得を到達目標とする。 授業内容：神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、中毒、機能性疾患について講義する。	◎	○	△		○	△		

専門基礎分
疾

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
野	病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進	◆ 小児科学	1	2	秋	到達目標：小児期の各期（新生児、乳児、学童、思春期）においてみられる疾患について、原因、病態生理、症状、経過、治療および予防の観点を学び、疾患をもつ小児特徴と治療および療養生活の看護援助、療育の方法と家族支援の方法について理解する。 授業内容：小児各期における成長と発達段階、各時期に特有な疾患について学ぶ。循環器疾患では、先天性ならびに後天性心疾患、特に川崎病、心筋症、不整脈の病態について学ぶ。消化器疾患では、先天奇形、食道・胃・小腸・大腸・直腸疾患、肝臓疾患について学ぶ。血液・造血疾患では主に貧血、白血病について学ぶ。腎臓・泌尿器疾患では、急性子宮体腎炎とネフローゼ症候群について学ぶ。神経疾患では、炎症性疾患、免疫性疾患、血管性疾患などを学ぶ。発達障害と社会生活の支援や難病についても学ぶ。	◎	○	△		○	△		
		◆ 精神医学Ⅰ	2	2	春	到達目標：精神医学の基礎的事項・総論的事項を理解できる。代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。精神障害特性を理解し、精神障害者へのリハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学ぶ。精神医学の歴史的な背景を理解できる。精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。 授業内容：具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、評価にも反映する。	◎	○	△	△	○	△		
		◆ 精神医学Ⅱ	1	3	春	到達目標：精神医学Ⅰで学んだ基礎的知識を基盤に、代表的な精神疾患について各々の特性を理解し、特性に応じたリハビリテーションのプランが作成できる。精神医学の先端的研究・治療を理解できる。精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。 授業内容：精神障害と脳機能を理解した上で、作業療法士は精神障害者のどのような状態に対して、どう対応すべきかの知識や態度を身につけ、多職種でのチーム医療の1員として活動できるようにする。	◎	○	△	△	○	△		
		◆ 臨床薬理学	1	2	春	到達目標：学生は、薬物の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について学ぶことができる。学生は、薬物に対する生体の反応についての基礎的知識を習得することができる。 授業内容：医薬品の薬理作用についての知識は医療に携わる者にとっては、必須なものである。従って、薬物の最新の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について教授する。さらに、「薬物に対する生体の反応」についての基礎的知識を身につけさせる。薬の作用と有害作用（副作用）、循環器系に作用する薬、抗生剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、消化性潰瘍治療薬の作用機序と臨床応用、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬、糖尿病治療薬等の長期間投与薬物の作用機序、有害作用、臨床応用について学ぶ。	◎	○	△		○	△		
		◆ 公衆衛生学	1	2	秋	到達目標：公衆衛生の基本的考え方が身につくことが目標である。 授業内容：公衆衛生活動では、疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術があり、それらを学ぶ。この科目では、公衆衛生の総論的なもの、基礎的考え方を中心として専攻に関連の深い内容も加えて学習する。	◎	○	○	△	○	△		
		◆ 臨床栄養学	1	1	秋	到達目標：学生は栄養素の体内での働きについて理解できる。学生は健康保持・増進のために、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかを理解できる。学生は疾病と栄養の関係について学び、疾病予防・治療・増悪化防止のための栄養食事療法について理解できる。 授業内容：栄養素の機能や食品の特性を理解するとともに、体内での消化・吸収・代謝について基礎的な知識を習得し、食生活に関心を持ち、食生活と健康について考える。さらに、さまざまなライフステージにある人の健康の保持・増進と疾病予防や治療のための食生活のあり方について考える。また、各種病態別の栄養食事療法についても学習することにより、作業療法士として患者の栄養指導への理解を深める。	◎	○	△		○	△		
		◆ 一般臨床医学	1	3	秋	到達目標：本講義では、学生がそれらの基本的な考え方、知識を習得し、初期対応できるようになることを到達目標とする。 授業内容：複数の教員によるオムニバス形式の講義で、別途、授業科目である内科学・整形外科等を除く臨床分野で、日常多く見られる各種疾患の初期診療に必要な要点を理解できるようにする。そのほか、救急医学や近年注目されている最先端医学についても紹介したい。これらの知識を深めておくことは、理学療法や作業療法を行っていくための基礎的能力を高める上で重要と考える。	◎	○	△		○	△		
		◆ 救急救命医学	1	3	春	到達目標：心肺蘇生術や理学療法士・作業療法士として実際の臨床現場で遭遇しうる救急疾患の病態、対処方法、感染症の基礎的知識および予防法について知り、理解すると共に、臨床現場で困らないだけの実践力をつけることを目標とする。 授業内容：「応急処置の基本と各場面における応急処置の実際」、「微生物学の基礎に基づく滅菌・消毒知識とその応用」を学ぶ。	◎	○	△		○	△		
◆ 保健医療福祉概論	1	1	春	到達目標：各学科の学生が、医師、看護師、保健師、助産師、理学・作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員などの仕事内容が理解できること、そして医療福祉施設の現状を知り、多職種連携のありかたについて理解を深めることである。 授業内容：医療技術の進歩により、これまで治せなかった疾病が治せるようになってきている反面、高齢化の進展により、医療だけでは解決できない問題が増えている。これらの状況に対応するためには、多職種連携が必要である。 授業では、医師、看護師、保健師、助産師、理学・作業療法士、社会福祉士、介護支援専門員の資格を有し、実務経験のある教員が順に講師となり、それぞれの経験に基づき、日本の保健医療福祉の現状を説明する。学生は、それぞれの仕事内容を理解し、チームアプローチできるようにする。	◎	○	△		○	△				

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	◆ リハビリテーション概論	1	1	春	到達目標：4年間にわたり作業療法士になるための教育を受ける上で基本となるリハビリテーションの歴史、理念をまず身につける。授業内容：リハビリテーションの理念と社会的、地域的リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーションの考え方を教授する。平成12年度より始まった公的介護保険制度についても、社会的背景より講義を行う。	◎	△	○		○	○		○	
	◆ リハビリテーション医学	1	1	秋	到達目標：春学期で学習した「リハビリテーション概論」の基礎知識を基に、2年次以降開講される専門科目をスムーズに学習できるリハビリテーションに関わる基礎知識を身につけることを目標とする。学生はリハビリテーションの対象となる主たる疾患の知識を身につけることができる。授業内容：リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーション医学の基本的原則を教授する。臨床医学の各科が個々の臓器や器官を対象とするのに対し、リハビリテーション医学は人間の行動能力全体を対象とする際だった特徴がある。障害の実体を科学的に捉え、合理的な解決を決めるための基礎を学ぶ。	◎	△	○		○	○		○	
	◆ 老年学	1	3	春	到達目標：本講義では、高齢者のリハビリテーションを効果的に進める上に重要な、老化と老年病に関する総合的な知識を身につけ、学生が臨床の現場で自ら考え、問題を解決することが出来るようになることを目指す。授業内容：高齢者に特有な症候やその検査方法、栄養問題、薬の副作用等について学ぶ。また、高齢者のリハビリテーションと共にそれを支える保険制度についても学習する。	◎	○	△		○	△			
	医療データオペレーションⅠ	2	1	春	到達目標：本授業では、コンピュータを、思考の外化・整理の道具、情報伝達の道具として活用する能力を身につけることを目標とする。授業内容：大学での勉学や研究、卒業後の職業生活や社会生活において必要となる、問題提起や課題解決にコンピュータを活用するための技術や知識を、講義と演習の形式で学習する。	◎		△	◎					○
	医療データオペレーションⅡ	2	1	秋	到達目標：本授業では、コンピュータを、データ分析の道具、情報伝達の道具として活用する能力を身につけることを目標とする。授業内容：大学での勉学や研究、卒業後の職業生活や社会生活において、問題提起や課題解決にコンピュータを活用するための技術や知識を講義と演習の形式で学習する。	◎		△	◎					○
	医療データ解析演習	2	2	春	到達目標：学生が在学中及び卒業後に調査・研究や実務を進める上で必要となる、「医療の実地に役立つデータ解析」をテーマとし、表計算ソフト(Excel)を用いてデータ集計から分析・統計解析、更にその活用ができるようになる。授業内容：1年次に情報処理や医療データオペレーションの各科目で学んだことを基礎にして、さまざまな臨床データを集計・分析し、さらにその結果を実際の業務に活かしていく考え方や方法についても考察し発展させる。このような科学的処理には、表計算ソフト(Excel)の集計・分析機能および各種の関数群が有効なので、それらの機能の使用法を実際の臨床データを随時使いながら徹底的に学んでいく。	△	◎	◎	○			○	○	
	実践医療英語	2	2	秋	到達目標：医療に関する文献にも興味を湧くようになり、臨床、研究のさまざまな場合で将来役に立つ英語力を身につけることを目標とする。授業内容：教科書の各ユニット〔筋骨格系 / がん / 循環器系 / 食事と栄養 / 消化器系 / 脳神経系 / リハビリテーション等〕のテーマに合った医学英語の習得を目指して、グループワーク・プレゼン・英文の内容に対する英語での応答・自分の考えを英語で発表するActive Learningにも取り組む。	◎		△	◎					○
◆ 作業療法概論	◆ 作業療法概論	1	1	春	到達目標：学生は、作業療法の専門性と独自性を明確に理解できることを目標とする。授業内容：作業的存在としての人と作業療法の役割を理解するために、作業のイメージを明確にし、各領域における作業療法の実践過程を理解する。また、作業療法の歴史的背景と実践理論の概要を学び、根拠に基づく実践の重要性と今後の作業療法への展望について検討する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	◎
	◆ 基礎作業学	1	1	秋	到達目標：学生は日常生活における人と作業の関わりの本質的理解が可能になる。また、作業療法で用いられる作業活動の医療・保健・福祉の領域での実践的な展開を学修する。講義の後半では、実際の作業課題を通して作業活動に含まれる運動・動作・行為の側面、感覚・知覚・認知の側面および心理・学習・精神の側面の各要素を体験的に身につけることができる。授業内容：作業治療の目的・対象・頻度・適用など分析的に捉えることができる。講義の後半では、作業治療の代表的種目である紙細工や陶芸などを実習形式で実際に体験し、道具の解説とその使用技術の習熟および作業療法での治療的応用について体験的に学修できる。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	
	◆ 基礎作業学実習	1	2	秋	到達目標：学園関連施設と連携し、入所高齢者に対して作業を通じた作業療法評価を行い、その人らしい作業の提供の立案・実施ができるようになることである。さらに治療手段として適応される基本的な手工芸を体験し、クライアントに応じた工夫を行い実践できる。授業内容：この科目では、高齢者施設に入所している高齢者、そして施設職員との連携を学びながら、高齢者に対し評価を実施し、結果を統合し、最終的にその人らしい作業の提供ができるように学習していく。	◎	△	○	◎	△	◎	○	◎	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	
基礎作業療法学	◆ 作業療法基礎演習Ⅰ	1	1	春	到達目標：学生は、学習習慣の定着に努めることができる。学生は、学力向上に向けて努力することができる。学生は、グループでの学びを通して人間関係を学びつつ自身の知識の理解を促進することができる。 授業内容：この演習では、初年度から少人数でグループ学習を行い、学習習慣の定着とともに学力向上を目指すことができる。学生は、グループ内での学びを通して相互に高め合いながら勉強方法を身につけていくことができる。学生は、他者との交流を図ることで医療福祉領域に必要な人間関係の構築方法を学ぶことができる。	◎	△	◎	◎				○	
	◆ 作業療法基礎演習Ⅱ	1	1	秋	到達目標：学生は、日々の高度な医療知識を統合して理解することができる。学生は、作業療法領域の知識を理解することができる。学生は、グループで知識を深め目標を高め合いながら勉強することができる。 授業内容：この演習では、基礎演習Ⅰに引き続き学習習慣の定着と基礎学力向上を図ることができる。学生は、日々の講義で学習した医学の基礎知識と作業療法の基礎知識を統合して解釈することができる。少人数グループ形式で互いに高め合いながら勉強方法を身につけて行くことができる。	◎	△	◎	◎				○	
	◆ 作業療法基礎演習Ⅲ	1	2	春	到達目標：学生は、日々の高度な医療知識を統合して理解することができる。学生は、作業療法領域の知識を理解することができる。学生は、グループで知識を深め目標を高め合いながら勉強することができる。 授業内容：この演習では、基礎演習Ⅱに引き続き学習習慣の定着と基礎学力向上を図ることができる。学生は、日々の講義で学習した医学の基礎知識と作業療法の基礎知識を統合して解釈することができる。少人数グループ形式で互いに高め合いながら勉強方法を身につけて行くことができる。	◎	△	◎	◎				○	
	◆ 作業療法基礎演習Ⅳ	1	2	秋	到達目標：学生は、学習習慣の定着に努めることができる。学生は、学力向上に向けて努力することができる。学生は、グループでの学びを通して自身の知識の理解を促進することができる。 授業内容：この演習では、初年度から少人数でグループ学習を行い、学習習慣の定着とともに学力向上を目指すことができる。学生は、グループ内、さらに臨床で働くPTやOTの先輩からの学びを通して、相互に高め合いながら勉強方法を身につけていくことができる。	◎	△	◎	◎					○
	◆ 作業療法学研究法	1	3	春	到達目標：学生は、①自らの疑問を文献レビューから研究疑問にすることができる、②研究計画をたてることができる。 授業内容：作業療法研究の概要について講義形式で学習した後、各ゼミに分かれ、研究テーマ設定に応じた文献レビューにゼミ学生と協力して取り組む。	◎	◎	◎	◎			◎	○	△
	◆ 作業療法学研究法演習	1	3	秋	到達目標：学生は卒業論文に必要なデータを収集、分析し、論文を作成することができる。 授業内容：学生は、大学生活の中で興味関心をもったテーマをもとに作業療法領域で研究を遂行する。学生は、大学生活の集大成として卒業論文のデータ収集・分析を行い、口述発表し、論文を執筆し、完成させることができる。	◎	◎	◎	◎			◎	○	△
作業療法管理学	◆ 作業療法管理学Ⅰ	1	3	秋	到達目標：学生は、マネジメントスキルを学ぶことができる。 授業内容：マネジメントに必要な知識を学んだ後に、ケースワークやグループワークを通してスキルを習得する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	
	◆ 作業療法管理学Ⅱ	1	4	秋	到達目標：学生は、本授業において、作業療法業務を実施する際に必要となる概念と知識を理解し、作業療法の関連法規や就業時のリスクマネジメントについて理解し知識が活用できる。 授業内容：作業療法士として、実際の臨床・臨地に従事するために必要な概念と知識を学ぶ。作業療法業務における管理・運営、職業倫理について概説する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	
作業療法評価学	◆ 作業療法評価学総論	1	2	春	到達目標：作業療法評価の基礎と領域共通の評価法を理解すること、学生が1) 作業療法評価の基本概念について理解できる、学生が2) 領域共通の評価の目的と方法を説明できる、ことを到達目標とする。 授業内容：評価の理念について学習する。面接・観察等の評価の基礎的技術について学習する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	
	◆ 身体障害作業療法評価学	2	2	秋	到達目標：学生は、身体障害分野で使用する評価法について目的・方法を理解し、実践することができる。 授業内容：作業療法で用いられる標準的な身体機能面の検査である形態測定、知覚検査、関節可動域測定、徒手筋力検査法などについて、その目的や方法等について講義するとともに、技法について実習し、その結果について検討する。実習場面では、常に身体接触を伴うので、患者・高齢者を想定し、挨拶、自己紹介、検査の目的等の説明を行い、丁寧な対応を行うことを前提に、検査・評価を実施する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	
	◆ 作業機能障害評価学	1	2	春	到達目標：学生は、作業機能障害分野で使用する評価法について目的・方法を理解し、実施することができる。 授業内容：作業療法で用いられる標準的な作業機能面の評価であるスクリーニング、自己報告、チェックリスト、観察、面接などについて、その目的や方法などについて抗議するとともに、技法について実習し、その結果について検討する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎	

授業科目 ◆は必修	単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
◆ 精神障害作業療法評価学	1	2	秋	到達目標：学生が、精神障害作業療法の評価の基本概念について理解できる、精神障害作業療法の評価の目的と方法を説明できる、ことを到達目標とする。 授業内容：評価の理念について学習し、次に、面接・観察等の評価の基礎的技術について学習する。精神障害を経験している方の生活について学習し、地域生活や作業に従事する際の評価法について学習する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 画像診断学	1	3	春	到達目標：医用画像を評価することはリハビリテーション医療を行う上できわめて重要で欠かすことのできないものになってきており、古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで理解することを目標とする。 授業内容：レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価する方法を学ぶ。セラピストにとって身体所見を取るうえでも念頭に置くべき基本となる情報を読み解く方法を学ぶ。	◎	△	○					
◆ 人間と作業	1	1	春	到達目標：学生は、講義とアクティブラーニングを通して、作業が人間の健康と幸福に与える影響を理解できる。 授業内容：作業が人間の健康と幸福に与える影響を様々な作業体験を通して学ぶ。	◎	△	○	◎	○	○	◎	◎
◆ 作業科学	1	3	春	到達目標：学生は、作業科学の視点を理解できる。学生は、作業科学の視点で事例を分析できる。学生は、作業科学と国家試験の専門問題を結びつけることができる。 授業内容：学生は、作業に根ざした実践に役立つさまざまな作業科学の知識を学ぶ。また、作業科学の視点と国家試験の専門問題の知の統合を学ぶ。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 身体障害作業療法学Ⅰ	1	3	春	到達目標：学生は、身体障害をもつ対象者に適切な作業療法（実習レベル）が行えるようになることを目標とする。 授業内容：身体障害領域において作業療法士が対象とする代表的な疾患について、各疾患の特徴・障害像・評価法・介入の基礎について学習する。また、各対象者の個別性に対応した評価および解釈が行えるよう事例検討を行う。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 身体障害作業療法学Ⅱ	1	3	秋	到達目標：学生は、身体障害を有するクライアントに対して疾患に応じた評価から介入までの一連のプロセスが理解できる。 授業内容：作業療法で介入する身体障害を有するクライアントは、身体障害が原因となり作業の問題を抱えている。学生はクライアントの作業の問題を解決するために身体障害を評価し介入することを理解する。具体的な内容として、身体障害領域で特に遭遇しやすい疾患（脳血管障害、整形疾患、神経障害等）について講義と演習を行う。さらに、身体障害を有するクライアントがどのような作業機能障害を引き起こしているかを学習する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 身体障害作業療法学演習	1	3	秋	到達目標：身体障害に関する作業療法の治療・指導・援助の方法を習得することを目標とする。 授業内容：身体障害に関して「基礎作業学」や「作業療法評価学」で学んだ関連事項をもとに作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の方法を学習する。また、職業関連や日常生活に必要な作業遂行能力との結びつきについて学習する。加えて、喀痰吸引について学習する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 認知機能作業療法学	1	3	春	到達目標：認知機能障害の概説、評価、介入の理解を学習目標とする。 授業内容：認知機能障害の概念や各主症状について概説し、作業療法士が行う認知機能評価や介入法について学習する。各種評価法については、実習をとおして実施方法を学習する。また、事例をとおして認知機能障害への評価から結果の解釈まで学習する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 認知機能作業療法学演習	1	3	秋	到達目標：認知機能作業療法に従事するために必要な知識と技術を学ぶ。 授業内容：まず、治療の考え方について概説する。そして、実践場における基本的な治療法に関して、講義・実技を行う。また、対象者を主体とした評価・治療に対する理解を深めるために事例検討を行い、脳画像や認知機能検査の解釈、治療計画の作成を行う。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 精神障害作業療法学	1	3	春	到達目標：学生は、各種精神疾患における障害特性や回復過程に応じた作業療法実践について学習することができる。学生は、作業療法と関連する各種支援、サービスについて学習することができる。 授業内容：学生は、作業療法実践に必要な知識や技術を学習していく。各種精神疾患における障害特性に応じた作業選択の際の留意点や作業療法実施の際の留意点について学習し、臨床経験の準備を行う。知識の確認のため、小テストを実施したりレポート課題を課す場合がある。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
◆ 精神障害作業療法学演習	1	3	秋	到達目標：学生は、作業療法実践に必要な技術を習得することができる。学生は、作業療法関連技法の代表的な技法の技術を習得することができる。 授業内容：学生は、作業療法提供及び関連援助法の提供に必要な技術を体験的に練習していく。記録報告について触れ、臨床経験の準備を行う。技術に関する知識の確認のため、小テストを実施したりレポート課題を課す場合がある。学生は、精神障害作業療法支援の実務経験を有する教員より、助言・指導を受け学習を進める。課題（試験やレポート等）は授業内にてフィードバックを行う。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
作業療法治療学 専門分野	◆ 発達障害作業療法学	1	2	秋	到達目標：学生は、小児領域リハビリテーションの歴史を学び、その対象疾患や小児作業療法について理解することができる。 授業内容：講義形式で、小児領域リハビリテーションの起源を知り、そこから現在に至るまでの変遷を学ぶ。また、小児作業療法を展開していくために必要な基礎医学の知識や臨床医学知識を統合して考察する。臨床場面のビデオ視聴で、グループ討議等により具体的な治療プログラムの立案等を経験する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
	◆ 発達障害作業療法学演習	1	3	秋	到達目標：典型的な運動および認知・言語機能の発達を理解し、説明することができる。発達障害領域における作業療法士の役割を説明することができる。脳性麻痺や他の発達障害などの典型的臨床像が理解、説明できる。脳性麻痺や他の発達障害などの疾患から生じる作業遂行障害及び遂行要素の問題を捉えることができる。脳性麻痺や他の発達障害などの疾患から生じる作業遂行障害及び遂行要素の問題に対する作業療法評価、治療的介入の立案ができる。 授業内容：講義および演習は人間発達学、小児科学、運動学、臨床神経学、作業療法概論、作業療法評価学等の知識を踏まえて行う。発達障害作業療法学で得た知識を基に各疾患・障害をより深く理解し、疾病の症状、合併症、禁忌事項を学び、対象疾患それぞれ対応する作業療法評価を適切に選び、評価と治療計画を立てることができることを目的とする。	◎	○	○	○	△	◎	○	◎
	◆ 高齢期作業療法学	1	3	春	到達目標：本授業では、高齢クライアントの豊かなライフスタイル構築を支援するために、学生が身体的・精神的特性と主観的側面の多様性を認識し、適切な作業療法サービスの提供方法が理解できることを到達目標とする。 授業内容：作業療法の実践においては、クライアントの個性を尊重した生活支援サービスを提供することが求められるが、役割の喪失期にある高齢者を対象とする場合は、生活満足感や主観的幸福感を高められるようなライフスタイルの構築を特に留意して援助しなければならず、本授業ではそのような援助方法を学生が理解するための知識と技術を学ぶ。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
	◆ 高齢期作業療法学演習	1	3	秋	到達目標：学生が高齢者支援における作業療法士の役割を理解し、医療機関や地域で作業療法を実践していくための専門的な知識や技術とはどのようなものであるか説明できることを到達目標とする。 授業内容：高齢者の作業療法実践に必要な知識、技術について学修する。認知症、虚弱、役割の喪失等、高齢者の特徴に応じた作業療法実践のポイントやプログラム立案及び実践方法を学習する。加えて、地域の通いの場での体験を通して専門職としての関わりや支援のポイントを学修する。また、作業療法士としての必須の技術となりつつある生活行為向上マネジメントの演習や臨床実習での活用方法について学修する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
	◆ 日常生活活動学	1	3	春	到達目標：日常生活活動の概念を理解する、日常生活活動の評価を把握する、日常生活活動の援助方法について実際に行える、を目標とする。 授業内容：日常生活活動の理解と援助方法について学習する	◎	△	○	△	◎	◎	○	◎
	◆ 日常生活活動学演習	1	3	秋	到達目標：障害者の自立支援、動作指導、介助、介助指導等が専門である作業療法士を目指す学生に、この分野で学習する知識、技術が臨床場面で生かされることが目標である。 授業内容：日常生活動作（主に起居、移乗、移動動作等）の学習、分析、実技を学生同士で実際に行う。	◎	△	○	△	◎	◎	○	◎
	◆ 義肢装具学	1	3	春	到達目標：学生は、講義と実習を通してクライアントの疾患に合わせて必要な義肢装具を選択し、適合探偵を行うことができる。 授業内容：上肢切断や関節リウマチなど、疾患の特性に応じた義肢や装具の仕組みを学習する。具体的には、義手や義足を中心とした義肢に触れ製作手順、装着、操作、適合判定等を学習できる。補装具に関しては、頸部・体幹・上肢・下肢装具、また車椅子や環境整備を含めて治療や生活の自立を学べる。学習は、教科書を通じて行う、また見本（実物）を用いて、より深く構造や適応を理解する。後半には、手副子（splint）を製作実施する。また、実際の義肢・装具製作過程を見学し、現場で義肢装具士より講義を受ける。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
	◆ 作業療法臨床技能演習	1	3	秋	到達目標：総合臨床実習で必要とされる知識・技術の習得を図る。 授業内容：総合的知識は臨床実習に必要な基礎科目、臨床医学、作業療法治療学についてグループ学習を行う。基本的技能・態度の習得のため、模擬患者に対し作業療法の評価を実施する。	◎	△	○	△	○	◎	○	◎
	作業療法実践演習Ⅰ	1	3	秋	到達目標：作業療法の臨床実践で必要となる面接・観察・検査測定技術向上を目的とする。 授業内容：作業療法の臨床場面を想定しての実技・演習を行い、実践力の向上を図る。	○	○	◎	◎	○	◎	○	◎
	作業療法実践演習Ⅱ	1	4	春	到達目標：作業療法の臨床実践で必要となる面接・観察・検査測定作業療法評価技術や作業療法支援技術の向上を目的とする。 授業内容：精神障害領域の対象者への実践と振り返りを行い、実践力の向上を図る。	○	○	◎	◎	○	◎	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
◆	作業療法総合演習Ⅰ	1	4	秋	到達目標：学生は作業療法を実践するに当たり必要な知識を理解し説明することができることを目標とする。 授業内容：各回の授業計画に合わせた内容にあわせ、国家試験受験対策学習について、専門領域の教員が解説などを行うことがあるが基本的には学生主体で進めていく。各回、配布する資料などを理解し学習することが出来るようになる。おもに、問題を解いたり、グループまたは2人組でディスカッションすることとなる。	◎	◎	◎	△			◎			
	作業療法総合演習Ⅱ	1	4	秋	到達目標：学生は作業療法を実践するに当たり必要な知識を理解し説明することができることを目標とする。 授業内容：各回の授業計画に合わせた内容にあわせ、国家試験受験対策学習について、専門領域の教員が解説などを行うことがあるが基本的には学生主体で進めていく。各回、配布する資料などを理解し学習することが出来るようになる。おもに、問題を解いたり、グループまたは2人組でディスカッションすることとなる。	◎	◎	◎	△			◎			
地域作業療法学	◆	地域作業療法学	1	3	秋	到達目標：学生が地域における作業療法士の役割を理解し、地域で作業療法を実践していくための専門的な技術とはどのようなものであるか説明できる。 授業内容：地域生活を支援する作業療法士に必要な知識、技術について学修する。地域での実践としては、小児から高齢者まですべての世代を対象に人生を支える支援の実践について学習する。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎	
	◆	生活環境学	1	3	秋	到達目標：クライアントの生活環境を支援するために必要な技術を、福祉用具と住環境の視点から理解できるようになる。 授業内容：クライアントの生活環境を福祉用具と住環境の視点から支援するために必要な知識・技術を学ぶ。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎	
	◆	就労支援学	1	3	秋	到達目標：ICFにおける職業関連活動の位置づけを理解する。「障害者と職業」では、障害者に関する基本的知識を習得し、職業関連活動の問題点を理解する。「職業関連活動に対する作業療法」では、職業関連活動における作業療法支援法の理論と介入方法を理解する。精神障害、身体障害、高次脳機能障害、知的障害について具体的な作業療法のプロセスを理解する。厚生労働省編一般職業適性検査を的確に実施できる技術を身につけることを到達目標とする。 授業内容：「人は何のために働くのか」をテーマとして、障害者の就労支援について、医療的側面と福祉的側面の両面から学び、職業リハビリテーションに関する問題の解決を自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎	
	◆	ヘルスプロモーション	1	4	秋	到達目標：適切な治療・指導・対策が実際の場面で実施できることを学習目標とする。 授業内容：老年期障害のリハビリテーションをすすめる上で、高齢者の身体機能、精神機能、日常活動、心理、社会などを総合的に理解・把握させる。	○	△		○		◎			
		リハビリテーション工学	1	3	秋	到達目標：1. コミュニケーションの障害とは何かを理解する 2. 様々な支援技術を理解する 3. 様々な福祉用具制度を理解する 4. 自分の考えをまとめて発表できる人材を育成する 授業内容：理学療法士、作業療法士が実践の場で必要となる福祉用具を紹介し、医療・福祉現場だけに留まらず地域で様々な弱者の困難を解決できるツールや技法を紹介する。単なる聴講のみではなく、パソコンやスマホなどの様々なデバイス（機器）のアクセシビリティを理解し、その問題点などをグループでディスカッションも行う。また自身の考えをまとめ、それぞれのスタイルで発表を行い、相互理解できる環境を作成する。	○	△		○		◎			
		地域レクリエーション演習	1	1	春	到達目標：学生は、『レクリエーションの社会的意義についての理解』ができる。学生は、『レクリエーション支援者としての役割についての理解』ができる。学生は、『セラピューティックなレクリエーションとは何か？』についての理解』ができる。 授業内容：本講義では「地域在住の中・高齢者を対象とした心身の健康における維持・増進」や「通所系・入所系施設を利用されている対象者におけるQOLの向上」に資する内容（理論・実技）に視座した教育を展開する。また、地域在住の人々が余暇を利用したQOL向上や、対象者個々における「その人らしい充実した生活の創出を実現するための支援」に資する戦略的思考を身につける為の演習を段階的かつ誘導的に実施し、その支援スキルを身につけさせる。				◎	○	△	○		
		中山間地域健康増進演習	1	1	秋	到達目標：地域の健康増進や介護予防の事業における社会的意義について理解ができる。地域の健康増進や介護予防の事業における支援者としての素養体験を蓄積できる。地域の健康増進や介護予防の事業における支援者としての基本力（知識・知恵）を修得できる。 授業内容：吉備国際大学の所在地である岡山県高梁市は「中山間地域」という地域属性であり、高齢化率の著しい増加とともに「通いの場の少なさ」に伴う地域在住高齢者の方々における「ICFでいうところの参加」の機会減少が懸念されている。本講義では、高梁市介護保険課が主幹となって運営されている複数の地域包括ケアシステムに関連している事業等を題材として、特に「中山間地域におけるリハビリテーション関連職のあり方（かかわり方）」について、中山間地域事業への参加体験や見学を交えながら学びを深めていく。				△	◎	○	○		

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
臨床実習	◆ 総合臨床実習	16	4	春	到達目標：学生は、病院・施設等の臨床実習施設において、作業療法実践に必要な基本的機能・能力・活動全般にわたる作業療法の知識および技術の習得を目標とする。 授業内容：学生は、臨床実習指導者の指導のもと、対象者に対し作業療法評価を行い、評価結果に基づいた作業療法援助計画を立案、実施することを課題とする。そして、これらの一連の過程の実践を行うことにより、一貫とした作業療法サービスの提供が可能になることを目指す。さらに、社会人および専門職としての責任ある態度や行動を養う。学生は、臨床実習指導者及び作業療法資格を有する教員より、助言・指導を受ける。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 臨床評価実習	4	3	春	到達目標：学生は、臨床実習指導者の指導を受けながら、対象者に対して作業療法評価の実施・問題点の抽出・目標の設定・作業療法治療プログラムの立案を理解することができる。学生は、実習前に臨床評価実習で必要な一定の知識・技術の基準を満たすことができる。学生は、実習経験報告会（実習後セミナー）において作業療法実践事例の報告や実習経験を通して学習した内容について報告を行い、質疑において適切に対応することができる。学生は、将来的に臨床家として活動していくうえで適切な行動の基礎を身につけることができる。 授業内容：学生は、3年次までに学習した作業療法の知識と技術を活用し、臨床場面において作業療法実践を経験する機会を得る。学生は、臨床場面において3年次までに修得した作業療法の実践に必要な知識と技術の活用を機会を通して、個別性の高い対象者への作業療法実践について学習することを目的とする。この科目の主たる内容は、対象者に応じた作業療法評価を実施し、さらに障害を経験している対象者の生活全体を見直し、対象者の生活上の問題点を抽出し、必要な作業療法目標の設定を行い、作業療法治療プログラム立案を行う。また、臨床現場での記録、報告等を体験し、臨床で実践するうえで必要な技術の獲得をめざす。学生は、臨床実習指導者及び作業療法の実践経験のある教員より、作業療法の知識・技術の習得に関する助言・指導を受ける。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 臨床見学実習	1	1	春	到達目標：学生は、①実際のサービス提供場面に接しながらリハビリテーション施設の体系を学ぶことができる、②他職種の中での作業療法の基本的な役割について理解する、③作業療法関連サービスの全体像を可能な限り把握する。 授業内容：学生は、作業療法の全体像を理解するために身体障害、老年期・地域、発達障害、精神障害の各分野における作業療法実践場面、および作業療法の基本的な役割について、各施設を見学し包括的に体験しながら学習する。学生は、施設指導者及び作業療法実践経験を有する教員により助言・指導を受ける。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 地域作業療法学実習	1	3	秋	到達目標：地域で生活するクライアントのQOLを支援する作業療法の実践について学ぶ。 授業内容：実習施設は、通所・訪問リハビリテーション事業所とし、生活行為向上マネジメントによるアセスメントとプラン作成を経験する。また、有意義な経験となるよう、必要な学内指導と実習後の報告会を実施する。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 医療保健福祉施設体験実習Ⅰ	1	1	春～秋	到達目標：将来医療福祉領域に関わる社会人として活動していくにあたり、適切な行動ができる。医療・保健・福祉分野の施設における他専門職者の役割を具体例をもって説明ができる。医療・保健・福祉の対象者と接し、対象者がどのような生活の問題を抱えているのかを知る。 授業内容：医療・保健・福祉分野において、作業療法の周辺領域にはどのような専門職の人々が働いているのかについて、実際の体験を通して学習する。また、医療・保健・福祉の支援を必要とする対象者（障がい者や高齢者、およびその家族）と接することによって、実際にどのような問題を抱えているのかを感じ取り、作業療法とは何かについて考える。学生は、施設指導者及び作業療法の実践経験を有する教員より、助言・指導を受ける。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 医療保健福祉施設体験実習Ⅱ	1	2	春～秋	到達目標：学生は、社会人として医療・保健・福祉分野における実践していくにあたり必要な行動は何であるかを見据え、行動することができる。学生は、医療・保健・福祉分野の施設における他専門職者の役割を具体例をもって説明ができる。学生は、医療・保健・福祉分野の対象者と接し、どのような問題を経験しているのかを理解することができる。 授業内容：医療・保健・福祉分野において、作業療法の周辺領域にはどのような専門職の人々が働いているのかについて、実際の体験を通して学習する。また、医療・保健・福祉の対象者（障がい者や高齢者、およびその家族）と接することによって、実際にどのような問題を抱えているのかを感じ取り、作業療法とは何かについて考える。学生は、施設指導者及び作業療法実務経験を有する教員より、助言・指導を受け学習を進める。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎
	◆ 医療保健福祉施設体験実習Ⅲ	1	2	春～秋	到達目標：将来社会人として活動していくにあたり、適切な行動ができる。医療・保健・福祉分野の施設における他専門職の役割について説明できる。医療・保健・福祉分野の対象者と接し、どのような問題を抱えているのかを知る。 授業内容：医療・保健・福祉分野において、作業療法の周辺領域にはどのような専門職の人々が働いているのかについて、実際の体験を通して学習する。また、医療・保健・福祉の対象者（障がい者や高齢者、およびその家族）と接することにより、実際にどのような問題を抱えているのかを知り、作業療法士の役割について考える。学生は、施設指導者及び作業療法の実践経験のある教員より助言・指導を受ける。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎

授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	到達目標 (授業内容を含めわかりやすく記入)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8		
	医療保健福祉施設体験実習Ⅳ	1	3	春～秋	到達目標：3年春学期までに学習した知識と技術を統合し、臨床場面での体験学習を行う。 授業内容：この科目の主たる内容は、指導者とともに対象者に応じた臨床評価を実施し、問題点の抽出を行う。また、臨床現場での記録・報告等について経験し学習する。更に、作業療法士以外の職種がどのように対象者支援を実践しているかについて体験的に学習を深めていく。	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	◎		
教育学に関する科目	教育原論	2	1	秋	到達目標：教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる。代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する。近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する。家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する。上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の意見を持つ。 授業内容：本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらう。	◎	△						○		
	教職論	2	1	春	到達目標：教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。 授業内容：教師、教職、人を教えるという行為など、教育という営みをめぐる哲学、原理的な課題からはじまり、学校教育、教員の使命と役割、学校における教員のさまざまな活動について理解する。また、これからの学校においては「チームとしての学校」の体制の中で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。	◎	△						○		
	教育行政学	2	2	春	到達目標：教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する。学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する。学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する。子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する。現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する。子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようになる。 授業内容：教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解する。	◎	△							○	
	教育心理学	2	2	春	到達目標：教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ。児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける。児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理的理解と、具体的な支援に寄与する教育心理学的知識を身につける。 授業内容：この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。	◎	△							○	
	特別支援教育	1	2	春	到達目標：、発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。 授業内容：特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、指導内容と具体的な方法を学ぶ。	◎	△							○	